



図 4 コベルニクス衛星で得られた距離に対する OVI の密度 (Jenkins, 1977) と OSO 8 で得られた軟 X 線のデータだけから推算される OVI の密度 (Matsuoka, 1978). OVI の観測によると密度は  $\langle n_{OVI} \rangle = 1.8 \times 10^{-8} \text{ cm}^{-3}$  である. 軟 X 線を出すプラズマだけで OVI を説明すると実線のようなになる.  $\log T$  は軟 X 線のスペクトルに合わせた温度で, モデルにより多少違うため 2 つの場合を示した.

いる. そしてたまたま太陽系は  $1.4 \times 10^6 \text{ K}$  のプラズマに包まれていると云うことである. また太陽系を包む高温プラズマ以外の遠くの高温度領域からの軟 X 線も期待される. しかしこの寄与は North Polar Spur など特殊な方向を除いてせいぜい 10~20% 以下と考えられる. 更に蛍光比例計数管によって得られたデータの解析をすすめてみると CYG Loop や North Polar Spur には O VIII が出す X 線 (0.65 keV) もあってもっと温度の高いプラズマもあることがはっきりした. また Fe XVII や Ne IX から出る線スペクトルも見い出され, CYG Loop と North Polar Spur では Fe XVII に差があることなどがわかってきた. これらについての詳しい議論は紙数の都合で省略するが, diffuse component の軟 X 線の線スペクトルが定量的に解析できるようになったのも蛍光比例計数管と云う新しい観測手段の登場による所が多い.

これまで雑なスペクトルしか出せなかった X 線天文学も最近の Clusters of galaxies などからの Fe XXV / XXVI の特性 X 線スペクトル (~7 keV) の発見, HER X-1 からのサイクロトロン放射のスペクトルなどと相俟って精密な天文学の仲間入りをしつつある. 折から HEA O-B の打上げが行われ X 線天文学も X 線像においても

スペクトロスコピーにおいても新しい段階に入ろうとしている.

## 学会だより

### 日本証券奨学財団の昭和 54 年度研究調査助成募集

この助成金の趣旨は, 学術文化の研究調査を奨励し, 社会の発展, 福祉に寄与することとなっており, 理学および工学も対象の部門に入っておりますが, 原則として研究者の年齢は 55 才以下としています. 昭和 54 年度の助成金総額は 3,000 万円で 400 万円以内のものを数件 100 万円以内の研究調査の助成を十数件予定しています. **申請書提出期間は本年 3 月 1 日より 4 月末日まで**となっていますので関心のある方は下記宛お問合せ下さい.

〒103 東京都中央区日本橋茅場町 1 丁目 14 番地

東京証券会館 3 階

財団法人 日本証券奨学財団 (Tel: 03-664-7113)

### 会費納入のお願い

4 月になり会計年度が改まりますので新年度会費の納入をお願いします. **会費は通常会員 3,500 円, 特別会員 10,000 円**です. 納入には今月号に同封の振込用紙を利用して三菱銀行三鷹支店 日本天文学会普通預金口座 (222-4434400), または郵便振替口座社団法人日本天文学会 (東京 6-13595) 宛振りこみか, あるいは現金書留を御利用下さい. 会の円滑な運営のため, できるだけ早く御納入下さるようお願いいたします.

### 住所変更について

学会事務所に毎月数冊の天文月報が転居先不明という符箋をつけてもどってきます. 事務所では会費を払った会員にそのまましておくわけにいかず, 電話等で勤務先など方々手をつくして転居先を捜さねばなりません. この手間は大変な事務量と費用を要します. 会員諸氏が転居される場合には必ず学会事務所にも転居通知を下さるとともに郵便局にも転居通知を出して下さいようお願い致します.

### 春季年会の開催日の訂正とお詫び

天文月報 3 月号において今春の年会の開催期日を **5 月 7 日(月)~13 日(金)**とお知らせ致しましたが, **5 月 7 日(月)~5 月 11 日(金)**の誤りでしたので訂正するとともにこの不手際をお詫びします.

☆ ☆ ☆